乳幼児をもつ母親へのサポートと育児不安

生きがいに着目して

宮本純子

(近畿大学九州短期大学)

キーワード: サポート, 育児不安, 生きがい

The relation between support of mother with small children and child-care-anxiety

Junko MIYAMOTO

(Kyushu Junior College of Kindai University)

Key Words: support, child-care-anxiety, purpose of life

目 的

1990 年前後から、「子育てサークル」の活動が全国各地で始まり (藤 2006), 国は育児支援対策に取り組み始めた。母親が受けるサポートは以前より増えたにもかかわらず, この 20 年の間, 母親のイライラ感が増大し, 育児不安が軽減されていないことが報告されている (原田, 2010)。その要因の一つとして, 現代の母親は「親としての役割を担うこと」と自分自身の「自己実現」の狭間で悩んでいることが指摘され, その悩みは, 夫のちょっとした手伝いや近所の話し相手の存在などでは解決されないほど, 人生の根幹にかかわる根が深いものであると述べられた。

鶴田 (1998) は「よく生きる」とは, 自分の生きる意味を探求しつつ, その人なりの「生きがい」を持って自分の人生を歩んでいくことだと述べた。自己実現への葛藤で悩んでいる母親にとって, 子育てと折り合いをつけ, 自分なりの「生きがい」を見いだせるサポートが望まれるのではないだろうか。

そこで, 本稿では母親へのサポートの内容とサポートの捉え方を育児不安の程度の違いから把握し, さらに母親の生きがいの視点から検討することを目的とする。

方 法

調査協力者: 乳幼児 (0-6 歳) をもつ母親 16 名の中から, 育児不安得点に配慮し選定した 12 名。

調査手続き: 面接場所は, 協力者と合意の上, 決定。面接時間は概ね 60 分-90 分で, 半構造化面接を実施した。サポートに関して誰からどのようなサポートを受け, どうとらえているかを自由に語ってもらった。質問紙では生きがいを問う項目と育児不安尺度 (宮本, 2013) に記入。調査は 2010 年 12 月-2011 年 2 月に行われた。

結 果

調査協力者は, 育児不安得点は 55 点から 61 点 (A, B, C, D, E, F) と 36 点から 41 点 (h, j, k, l, m, n) の幅で分布する。結果を育児不安の高低に分けて 6 名ずつの事例として記述し, 生きがいに関しては質問紙から把握した。

1. 育児不安が高い母親

育児不安の高い母親 A, B, D, C, E, F がうけたサポートはそれぞれ違いが見られ, かなり深刻な状況の母親もいて, サポートの現状には幅があった。A は喘息を患っているが, 夫も家族も友人も誰からもサポートを受けられない状況だった。F も夫や親のサポートは受けておらず, 相談する人が身近にいないように思われた。B, C, E は親のサポートはないが, 夫が少し協力していた。D は

夫の協力はなく, 自分の父親が子どもの世話をしてくれたが, 亡くなっている母との間に葛藤があった。6 人とも実の母親に育児を手伝ってもらっていない。また, ママ友は存在していたが, あくまでも浅い付き合いとわり切っている面も見られた。生きがいとしてとりあげたものに, A, D, E は子育てを, B, D, E は仕事を, A, E は趣味を, B, C, F は模索中だった。

2. 育児不安が低い母親

育児不安が低い母親は h, l, m, j, k, n の中で, 夫の理解や協力には, h, l, j, k の 4 人に見られた。親の援助も l, j, k の 3 人に見られた。また, h, l, m, j, k, n の 6 人に共通していたことは, 友人や地域との繋がりがあった。h は親が離れていたのも, むしろ絆を深めていた。l はサークル活動をしたり, 交流をもっていた。m もママ友と話してストレスを発散しており, j もそれなりに付き合い合っている様子。k は悩んでいた時にサークルで気の合う友達と出会えたのが立ち直れたきっかけとも話している。n は公民館に音楽活動で恩返しをしたいとさえ言っている。生きがいに関しては, h, l, m, j, n が子育てを, h, l, k, n が趣味を, m, n が地域をとりあげた。

考 察

育児不安の高い母親は, 家族からのサポートにあまり恵まれていないことが示唆された。また, 地域から提供される「子育てサークル」「子育て広場」のような場も表面的な付き合いの場として利用しており, ママ友とは一線をおき, 深い付き合いをしないようにしている点が共通していた。育児不安の高い母親は家族や地域との関わりが浅いことから, 本音で自分の悩みを話す人が身近に存在していない可能性が推察された。生きがいに関しては模索中が半数で, 子育てを生きがいとしていないことから子育てに喜びを見いだせるような援助を検討することが必要である。さらに本音で語り自分の気持ちを受容できるような体験も望まれる。

一方, 育児不安の低い母親は家族からのサポートに恵まれており, さらに地域とのかかわりにおいても, 絆を深めたり, 信頼をおいて付き合い合っている様子がうかがえた。生きがいを模索中の母親は存在せず, ほとんどの母親が子育てを生きがいとしており, 地域と繋がることにより育児を肯定的に捉えている面も示された。同じ支援が提供されていても, その支援の受け止め方や利用の仕方に大きな違いがあり, 子育て支援やママ友に関する認知を肯定的に変えるような働きかけも重要であると考えられた。